



2022年7月5日

各位

会社名 株式会社ラクト・ジャパン
代表者 代表取締役社長 三浦 元久
(コード：3139 東証プライム市場)
問合せ先 IR広報部長 石黒 裕子
(TEL. 03-6281-9752)

2022年11月期第2四半期(累計)連結業績予想および
通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年1月14日に公表しました2022年11月期の第2四半期(累計)連結業績予想および通期連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想値の修正について

(1) 2022年11月期第2四半期(累計)連結業績予想値の修正

(2021年12月1日～2022年5月31日)

	売上高	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想(A)	61,500	1,350	980	99.38
今回修正予想(B)	69,780	1,660	1,200	121.63
増減額(B-A)	8,280	310	220	
増減率	13.5%	23.0%	22.4%	
(ご参考) 前期実績 (2021年11月期 第2四半期)	52,648	1,412	1,010	102.52

(2) 2022年11月期通期連結業績予想値の修正

(2021年12月1日～2022年11月30日)

	売上高 百万円	経常利益 百万円	親会社株主に帰属 する当期純利益 百万円	1株当たり 当期純利益 円
前回発表予想 (A)	126,000	2,900	2,100	212.95
今回修正予想 (B)	140,000	3,100	2,250	227.94
増減額 (B - A)	14,000	200	150	
増減率	11.1%	6.9%	7.1%	
(ご参考) 前期実績 (2021年11月期)	110,883	2,681	1,959	198.73

2. 修正の理由

(第2四半期(累計)連結業績予想値)

日本国内においては、当第1四半期(2021年12月～2022年2月)は新型コロナウイルスの感染拡大の影響が見られたものの、第2四半期(2022年3月～5月)以降は感染状況の落ち着きとともに行動制限が緩和され、業務用食材の需要が戻り基調となったことから、乳原料・チーズ部門の販売数量は増加しました。加えてコロナ禍以降続く乳製品需給の逼迫や、ロシアのウクライナ侵攻による世界情勢の不安定化などを背景に乳製品原料の国際市況が高騰、さらには円安の進行により販売単価が上昇したことなどから、売上高は期初想定を上回る見通しとなりました。

アジアにおいても行動制限の緩和、インバウンドの受入れ再開などにより乳製品に対する需要は回復傾向となりました。乳原料販売部門では現地需要の回復に加え、乳製品在庫調整特別対策事業による日本からの乳製品の輸出販売もあり、販売数量が伸長しました。また、乳製品の国際市況高騰を背景とした販売単価の上昇と円安進行により、円貨換算の売上高の伸びは予想を大幅に超える結果となり、連結売上高、連結経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は期初予想・前年同四半期比をともに上回る見込みです。

(通期連結業績予想値)

第2四半期累計期間の業績予想修正の修正要因に加え、下期についても乳製品および食肉加工品の国際市況の高止まりや円安の継続、さらには食品全般において業務用を中心に需要が回復してくることなどを想定し、通期の連結売上高も期初計画を上回ると見込んでおります。

連結経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、ロシア・ウクライナ問題の長期化や世界的なインフレの進行による原材料価格の上昇、物流混乱に起因するコスト増の懸念が残ることや、行動制限解除に伴う営業関連費用の増加などを想定しておりますが、それらの要因を踏まえたうえで、期初予想を上回る見込みとなったことから業績予想を修正いたしました。

*上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上